

みんな解党

地方議員どこへ

みんなの党が28日に解党し、5年余りの歴史に終止符を打つ。「党発祥の地」とされ全国有数の議員を擁する神奈川県では多くの地方議会に根を張ってきたが、党の存続をめぐる議論に地方議員は最後まで関わられなかった。国会議員が進路を決める一方、足腰を支えてきた地方議員は間近に迫る衆院選での立ち位置や、来春に控える統一地方選に向けた身の振り方を探っている。自民、民主の二大政党に對抗する「第三極」の一角が消えたことへの当惑は深い。

（報道部） 関連記事2面に

た

「破産説明会のような」 緯を説明。だが、出席者からは「経緯は理解するが、納得はできない」（横山勇太郎横浜市議）といった声

党員総支部が横浜市内で20日に開いた会合。出席した平野和之横浜市議はこう振り返る。約30人の地方議員を前に、浅尾慶一郎代表や中西健治政調会長（参院神奈川県選挙区）が解党の経

「誰と組むかの前に何をやるか」（渡辺喜美前代表）と繰り返してきた党は結局、誰と組むかの対立を乗り越えられず「雲散霧消」

突発選挙

2014かながわ

「第三極」一角消え 統一選控え道探る

2009年1月	渡辺喜美元行革担当相が自民党を離党
8月	渡辺氏と江田憲司氏（現維新の党共同代表）ら5人で、みんなの党を結成。渡辺氏が代表に就任。衆院選で5議席を獲得
10年7月	参院選で10議席を獲得
12年12月	衆院選で18議席を獲得
13年7月	参院選で8人が当選し、参院での議席は計18に
8月	渡辺氏が党運営をめぐる対立する幹事長の江田氏を更迭
12月	離党した江田氏ら15人が、野党再編を目指した新党「結いの党」を結成。みんなの党は分裂
14年2月	結党以来初となる党綱領を決定
3月	渡辺氏の計8億円に及ぶ借り入れ問題が発覚
4月	渡辺氏が代表を辞任。後任に浅尾慶一郎氏が就任
9月	野党再編が軸足の浅尾氏と、安倍政権への協力を訴える渡辺氏との路線対立が激化
11月19日	両院議員総会で解党を決定
28日	解党

みんなの党をめぐる経過

（肩書は当時）

し、無所属での出馬を固めた。松沢成文参院議員は次世代の党に入党する。だが統一地方選を控える地方議員は、難しい立場に置かれたままだ。

「浅尾代表が選挙後にみんなの党の政策や理念を継承する新党をつくるなら一

緒に参画する。でも、既存の政党内に入党するとなつたときは支持者と相談して決めたい」。浅尾氏の地盤、横浜市栄区選出の楠梨恵子議員は苦しい胸の内を明かす。

すでに離党届を出している

「党の理念は残る。総選挙後に仲間と相談して、統一地方選をどう戦うか考えた」と述べ、第三極にこだわる意向を示した。

県総支部幹事長として党を支えてきた塩坂源一郎議員は、こう話す。「4度の国政選挙で多くの支持をいただいた。その中で党をなぐすのは、まだ納得いかない。浅尾代表には、有権者に選択肢を示せるようお願いしたい。その際には、地方議員の意見を聞いてくれる政党内してほしい」

解党を決めた19日の両院議員総会も党存続を訴える地方議員らが国会に押し寄せ、大荒れに。内紛を收拾できない執行部が解党論に傾く一方、地方議員は蚊帳の外に置かれたままだ

解党決定後、国会議員は次々に進路を決めている。山内康一国対委員長らは民主入り。浅尾代表や渡辺前代表は新党設立を断念